

25. グリーン・ツーリズムの日欧比較

- ・ヨーロッパでは、農村での滞在期間が①[]。ヨーロッパの農家は②[]でプライバシーが守られるし、比較的簡単な改修工事で快適な宿泊空間をつくることができる。ボトムアップで徐々に定着してきた。また、全国的な協会組織の活動が活発。
- ・日本の場合は滞在期間が③[]、しかも時期的に④[]する。日本の農家は、開放的な⑤[]であるため、個室の確保に大がかりな改修工事が必要となる。条件不利対策の柱として、⑥[]による受け皿づくりが急速に進んだ。
 - これらの理由により、⑦[](副業的な農家民宿)では採算が取れない。
 - よって、専門的な体験型民宿か、⑧[](公的な主体が施設整備を行い、運営面で地域住民がかかわる施設)のスタイルをとらざるを得ない。

26. 参加型計画手法について

- ・農村計画分野で開発されてきた参加型計画手法
 1. 地区総合計画のための土地評価(牛野正, 1978)
 2. ①[](渡辺光男他, 1974)とワークショップ(藤本信義他, 1980)
 3. シャトル・サーベイ(目瀬守男, 1980年代)
 4. 地域農業振興計画のための農地一筆調査(和田照男, 1983)
 5. ②[](門間敏之他, 1990年代)
- ・参加型計画手法の定式化
 - 計画作成のための技法としての性格と、住民・農家に対する動機付けの手段としての性格を両方兼ね備えた計画手法(③[], 1992)

27. 参加型計画手法の特徴と役割

- ・参加型計画手法の特性
 - ①[]:参加者は地図や一覧表への記入、カードの並べ替え、図面上での作図・色塗りなど、何らかの形で自分の手を動かすことを要求される
 - ②[]:参加者は作業の過程で、自らの経験や価値観を参照しながら各種の思考・発想・判断を行うことを要求されている
 - ③[]:参加者は別々にではなく、共同(集団)でひとつの仕事を完成させることを要求されている
- ・参加型計画手法とモチベーション
 - 西堀栄三郎氏は仕事の3要素として④[], ⑤[], ⑥[]をあげ、これらが相互に作用し合っとうまく循環したときに仕事への意欲がわいてくることを指摘しているが、参加型計画手法の3つの特徴と対応する。
 - よって、参加型手法は仕事の意欲=モチベーション(動機づけ)の必要条件を備えている

28. 問題解決学からみた問題類型と解決の手順

- ・①[]とは、問題や不具合が顕在化している場合の問題であり、②[]とは問題それ自体が表面化しているわけではないが、夢(理想)を実現しようとする場合の問題である。
- ・前者は、目標水準自体が与件的に与えられている場合の「目標と現状との間のギャップ」であり、後者は一段と高い水準に目標を新たに設定し直した場合のギャップである。

29. ビジョンの要件

- ・経営分野で経営ビジョンという言葉は、例えば次のように定義されている。
 - 例:会社や事業体あるいは特定のグループにおいて、全員によって共有されるべき価値観・活動の目的をいい、企業活動の基本になる考え方。
- ・ビジョンの3要件
 - 将来あるべき姿=①[](将来の基本設計図)
 - 諸活動の基本にすべき考え方(②[])
 - メンバーによって共有されるべきもの